

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	失語症Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	二年次		学期及び曜時限	通年 木曜3限 他	教室名	405教室
担 当 教 員	野津 裕子	実務経験とその関連資格	病院勤務時、回復期および生活期の失語症患者様のリハビリテーション業務の実務経験がある。			
《授業科目における学習内容》						
1. 1年次の失語症Ⅰで学んだ古典分類に加え、それ以外の失語症および純粹型のタイプや症状について学ぶ。 2. 失語症患者の評価・診断・訓練・援助について学ぶ。 3. 言語情報処理システムについて学び、失語症の障害メカニズムを理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験(80点)、小テスト(20点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書①】 「標準言語聴覚障害学 失語症学」医学書院 【教科書②】 「なるほど失語症の評価と治療」金原出版						
《授業外における学習方法》						
各回の講義後に復習を行うことで疑問点を明らかにする。その疑問点については調べ学習や講師への質問等により疑問のまま残さない努力をしてください。また、小テストを活用して基本的知識の修得に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
2学年後期に履修する臨床評価実習に必要な基本的知識の獲得は必須である。加えて、言語聴覚士として必要な態度についても学ぶ。グループ活動では学びに貢献できるよう積極的に参加すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・1学年で学んだ基本的知識の理解度を確認し知識を整理する。 ・皮質下性失語の特徴、発生機序が説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	確認テスト、皮質下性失語(教科書 p130～134)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	診断の条件、言語症状を説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	交叉性失語(教科書 p128～129)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	各タイプの特徴が説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	原発性進行性失語(語義失語含む)(教科書 p122～、p160～)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	定義、症状、類似症候を説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	純粹型① 発語失行①(教科書 p138～、p309～)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	発語失行の訓練について説明出来る。純粹語聾の症状、病巣、発生メカニズムが説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	純粹型② 発語失行②、純粹語聾(教科書 p134～)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	定義、症状、病巣、発生メカニズムについて説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	純粋型③ 純粋失読、純粋失書、失読失書(教科書 p142～p156)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	評価・診断の目的が説明できる。問題点をICFの概念的枠組みで説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	評価・診断の原則(教科書 p169～)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士が実施する言語面の情報収集の方法、内容が説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	情報収集① 総合検査と特定検査(教科書 p174～)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語情報以外に収集する情報の内容、方法について説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	情報収集② (教科書 p181～)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症、発語失行の症状等から鑑別ポイントが説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	鑑別診断 (教科書 p195～)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呈示した症例の全体像、特徴的な症状を記録し、説明できる。	教科書、参考文献	症例の観察レポートを作成し提出すること
		各コマにおける授業予定	言語治療の原則 観察・評価 症例検討①		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例のデータから症状について考察できる。	教科書、参考文献	症例の観察レポートの検討内容についてまとめのレポートを作成し提出すること
		各コマにおける授業予定	言語治療の原則 観察・評価 症例検討②		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例のデータから症状について考察できる。	教科書、参考文献	症例の観察レポートの検討内容についてまとめのレポートを作成し提出すること
		各コマにおける授業予定	言語治療の原則 観察・評価 症例検討③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語治療の枠組みと他職種連携について説明できる。	教科書、参考文献	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	言語治療の原則 言語治療の枠組み(教科書 p204～)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の講義内容を振り返り、要点を説明できる。	教科書、参考文献	1～15回の講義の要点をまとめること
		各コマにおける授業予定	まとめ		